

未来大賞

新井純子

「まちに未来の種をまく

—10年のカフェ運営から学びと老年期への船出—

<要旨>

私の全く個人的な子育ての悩みから、社会教育に出会い、その後、子育ての仕組みとしてコミュニティカフェ構想を考えた。また、その仕組みは子育て支援ばかりではなく、どの人も助ける仕組みだと思うようになった。「こんな場所があれば、その街に住んでいる誰もが自分の力を持ちより、その場所に出し合って、助け合って暮らせるのではないか。街は住んでうれしい街になるのではないか」との構想を「コミカフェ（コミュニティカフェ）は子育て支援の要」という作文に書いた。その作文は育児雑誌の一席をいただいた。作文を書いたから十数年が経過している。

その作文に書いた「誰もが活躍できて、助けられる場」を実際に立ち上げ、2019年11月に10周年を迎えた。今回のレポートでは場を作ってから10年の実践記録をまとめた。この10年は仮説の証明をしてきた10年だったといえる。さらに、今後「その場」が「SDGs＝持続可能な開発目標」を掲げて取り組んでいくことを決めてさらに進んでいることを紹介している。11年目の2020年は新型コロナウイルスで世の中が混乱した。医療従事者の仕事のほかに女性たちの多くが担っている暮らしに関わる仕事が「エッセンシャルワーク」として「見える化」されたことも書き記した。最後に私自身が還暦を過ぎ、どのように高齢時期を過ごしたいか、といったこともレポートした。